

ちょっと怖かった話

— 私のメキシコでの体験 —

伊藤 暁子

(浜松日本語学院日本語教師養成講座)

私は、メキシコで警官に連行されて警察署に勾留されたことがあります。
連行の理由は、外でお酒を飲んでいたので、海外には、外での飲酒が禁止されている国があり、メキシコもその1つです。私はそれを知っていたにもかかわらず、ある日の昼下がり、へまをしてしまいました。

その日、私は日本人の友人1人と蚤の市に行きました。そこは屋外のマーケットでしたが、屋台でお酒も売られており、マーケットの敷地内であれば飲酒OKでした。私たちはカクテルを飲みました。しかし、全部は飲みきれませんでした。残りは捨てればよかったのに、貧乏性で、結局カップを持ったままマーケットを出て、少し先の公園でちびちび飲んでいました。するとすぐ警官がやってきて、私たちはパトカーで連行されてしまいました。

警察署に着くと、一連の流れを説明されました。まず医務室で健康チェック、その後に取り調べを受けて、最後に罰金を払って釈放、とのことでした。しかしほかにも連行された人々が1階のフロアだけでも50人近くもいたので全然順番が回ってきません。

私はトイレに行きたくなり、警官にお願いすると2階に案内されました。鉄

格子の部屋が並び、30人位が詰め込まれ、悲鳴や奇声が響いていました。警官

は誰もいない部屋の1つを指さし、そのトイレを使えと言いました。真っ暗な8

畳程度のコンクリート部屋で、端に便器がぽつんとありました。鉄格子から丸

見えですが仕方ありません。すると突然、お経のような声が聞こえてきました。

目を凝らすと、その部屋の片隅で、頭からパーカーを被った男の人が、体育座

りをしてブツブツ何やらつぶやいていたのです。さすがの怖さに私は1階へ駆

け下り、女性警官を探して懇願し、職員用トイレを使わせてもらったのです。

いつしか到着から5時間近く経っていました。健康チェックすらまだです。

その時でした。警官の1人が私に「君の友達、顔色が悪いけど大丈夫？」と声

をかけてきました。友人に確認すると、「具合悪くないよ。顔色が悪いのは生ま

れつき。」と私に答えました。しかし私は、これはチャンスだと思い、警官に

言いました。「彼女は今にも吐きそうだと言っています。日本大使館に電話で

相談していいですか？」と。すると、あれよあれよと私たちは医務室に通され

ました。

医務室には男性医師と女性看護師がおり、私たちを見て大変驚いていまし

た。そして、私たちを連行した警官を呼び、「文化の違いで外国人は違反をして

しまうことがあるのだから、ここに連れてくるのは間違っている。外交問題に

発展したらどうするんだ！」と、彼を叱りました。

その後私たちは、医師と看護師から「体調は大丈夫か、失礼なことはされ

なかったか」と確認されました。そして最後になぜか、「吐きそうな時はこれが

いちばん ^{くすり} 薬だよ！」と、コカ・コーラをごちそうされ、無事 ^{ぶ じ しゃく ほう} 釈放されました。外 ^{そと}

で ^あ 出ると、^あ 辺りは ^よ すっかり夜でした。

(1188^じ字)

(2022.6 たどくのひろば ^{けいさい} 掲載)



この作品はクリエイティブ・コモンズ ^{ひょうじ} 表示 - ^{ひえいり} 非営利 - ^{けいしょう} 継承 4.0 ^{こくさい} 国際 ライセンスの下に ^{もと} 提供されています。この ^{きくひん} 作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を ^{しゅつてん} 出典として ^{しめ} 示してください。

例) ^{れい} 出典: 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.